

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組について

1 延期後の新たな大会日程

(1) 大会スケジュール等

- ① **オリンピック** 2021年7月23日(金)～8月8日(日)、33競技
- ② **パラリンピック** 2021年8月24日(火)～9月5日(日)、22競技

(2) 大会ビジョン

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

(3) 復興五輪

スポーツの力で被災地に元気と感動を届ける。
そして、様々な困難を乗り越え、**復興へと歩む被災地の姿を世界に発信し、支援していただいた人々に感謝を伝えていく。**

2 本県の取組の目指すところ

- **復興支援への感謝・復興への誓いを伝えるとともに、復興の今の姿を発信**
- オリンピック・パラリンピックの価値を共有
- 海外との人的・文化的交流の活性化による地域振興



3 これまでの主な取組

<復興の火、聖火リレー、パラ聖火フェスティバル>

- (1) **復興の火**：「三陸鉄道」、「SL銀河」の車両・各駅前（宮古、陸中山田、大槌、釜石、上有住、遠野、花巻）、おおふなぼーとを活用した展示イベント（R2.3.22～23）総来場者 5,300人
- (2) **オリンピック聖火リレー**：県内聖火リレー詳細ルート公表、聖火リレーランナー（県実行委分）の公表
- (3) **パラリンピック聖火フェスティバル**：全33市町村での実施決定・公表



【復興の火】出発セレモニー

<ホストタウン、事前キャンプ> ※令和2年6月現在

(1) ホストタウン：20市町村が登録、19カ国・地域と交流

- ホストタウン：盛岡市(カナダ、マリ)、遠野市(ブラジル)、八幡平市(ルワンダ)、紫波町(カナダ)、宮古市(ナミビア)、西和賀町(コートジボワール)、一戸町(パラグアイ)、岩手町(アイルランド)
- 復興「ありがとう」ホストタウン：大船渡市(アメリカ)、花巻市(アメリカ、オーストリア)、陸前高田市(シンガポール)、釜石市(オーストラリア)、野田村(台湾)、宮古市(シンガポール)、雫石町(ドイツ)、山田町(オランダ)、久慈市(リトアニア)、大槌町(台湾、サウジアラビア)、二戸市(ガボン)、矢巾町(オーストリア)、北上市(セルビア)
- 共生社会ホストタウン：遠野市(ブラジル)、陸前高田市(シンガポール)

(2) 事前キャンプ：6市町

オリンピック競技

- 花巻市 日本代表(ボート)
- 盛岡市 カナダ代表(水球、7人制ラグビー)、マリ代表(柔道)
- 八幡平市 ルワンダ代表(陸上、自転車、ビーチバレーボール)
- 岩手町 アイルランド代表(女子ホッケー)
- 紫波町 カナダ代表(男子バレーボール)

パラリンピック競技

- 遠野市 ブラジル代表(視覚障害者5人制サッカー)



【ブラジル代表選手との交流(遠野市)】

<機運醸成、復興五輪を具現化するための取組>

- (1) 旧国立競技場炬火台の常設・巡回展示（R元.5.21～7.14）5町村で展示 来場者 19,389人
- (2) 「いわてスポーツフェスタ Go for 2020」の開催（R元.7.27～28）来場者 53,743人
- (3) オリンピックデー・フェスタの開催（R元.6.15～8.4）沿岸5町で実施 ※JOC主催
- (4) 在京海外メディアによる被災地取材ツアーの実施（R元.8.18～19）9カ国・地域 15社が参加 ※東京都主催
- (5) 復興のモニュメント制作に向けたワークショップの実施（R元.8.22）参加者 102人 ※組織委主催など



【オリンピックデー・フェスタ】



【旧国立競技場炬火台の巡回展示】

4 大会延期を踏まえた令和2年度の主な取組

<聖火リレー、聖火フェスティバル> ⇒延期後の内容・日程は組織委員会で検討中

- 市町村、県警、消防等関係機関と連携し、より安全・確実な運営に向けた準備を実施
- (1) **オリンピック聖火リレー**（延期前日程：2020.6.17～19）
 - ・新しい日程での実施に向けたルート、セレモニー、ランナー等の再調整
 - ・大会への県民参画機会の創出に向けたボランティアの活用
- (2) **パラリンピック聖火フェスティバル**（延期前日程：2020.8.13～17）
 - ・新しい日程での実施に向けた採火・集火イベント等の再調整



【聖火リレートーチ】

<ホストタウン、事前キャンプ>

(1) ホストタウン

- ・大会終了後も見据えた交流事業の企画・実施への支援
- ・ホストタウン相互の情報共有や連携の働きかけ

(2) 事前キャンプ

- ・いわてスポーツコミッションと連携した事前キャンプ誘致、円滑な受け入れの支援



【ルワンダ代表選手との交流(八幡平市)】

<機運醸成、復興五輪を具現化するための取組>

- (1) 復興五輪出前スクール（9月～）
 - ・小学生及び特別支援学校生を対象とした出前授業（聖火リレートーチ披露、クイズ、パラ競技体験等）
- (2) 聖火リレートーチ巡回展示（9月～）
 - ・県内全市町村の庁舎・公共施設等での展示
- (3) 東京2020マイルストーンイベント（9月以降）
 - ・カウントダウンボードの設置、東京2020大会ミュージアムの巡回展示
- (4) 復興五輪の情報発信（8月～）
 - ・大会リーフレット及びインターネットによる復興五輪や聖火リレー、ホストタウン相手国等の情報発信
- (5) 国、東京都等と連携した取組
 - ・被災3県合同イベント（子どもたちのラグビー交流、復興学習等 10月）※東京都主催
 - ・子ども復興五輪（ラグビー、サッカー、ソフトボールなどのスポーツ交流 11月）※復興庁主催
 - ・オリンピックデー・フェスタによる県民とオリンピックとの交流（R3.2～3月）※JOC主催

5 令和3年度の主な取組（時期未定）

- ・オリンピック聖火リレー
- ・パラリンピック聖火フェスティバル
- ・東京2020NIPPON フェスティバル～しあわせはこぶ旅 モッコが復興を歩む東北からTOKYOへ～（陸前高田市） ※組織委主催
- ・復興モニュメントの設置（大会前：都内、大会後：県内） ※組織委・東京都主催
- ・復興祈念植樹（大会前・大会後：都内） ※東京都主催
- ・被災地子ども観戦招待（都内） ※東京都主催
- ・海外メディアによる被災地取材ツアー（県内） ※経産省主催

